

かけはし

—小だより

No.16 23・12・8

10年の重み

校長 大村 亨 夫

校長室での楽しみに、お客様とのお話があります。営業マンや地域の方々から教育とは違った話題を聞くことは、私にとって新鮮なひとときです。

先日、全校朝会にお呼びしたリンゴ農家、手塚栄一さんとの語らいも勉強になりました。長野県まで出かけリンゴの栽培を学んだ手塚さんは、27年間ひとりでリンゴを育ててこられました。土を改良し、育て方を工夫するなどの試行錯誤を繰り返し、自分で満足できるリンゴになった時は、すでに10年の歳月が過ぎていたそうです。「勉強勉強でやってきたげんど、生き物そだでんのは、かんたんてなえなあ」手塚さんはしみじみとおっしゃっていました。

10年という言葉で思い出したのが、東京ディズニーランドを経営する「株式会社オリエンタルランド」の上澤 昇さんのことです。みなさんお馴染みのテーマパークである東京ディズニーランドは、楽しさと同時にサービスの良さでも有名な場所です。

心地よい「おもてなし」のできる社員を育てた上澤さんは、こんなことを語っています。「私は、ディズニーの教育は採用で50%終わると考えています。適性を見極められるかどうかは問題です。表情が明るくしっかりとしたあいさつができるか。仕事に対するひたむきな気持ちがあるか。向上心や協調性があるかを見ます。これらは、ディズニーの教育を受け入れる素地が整っているかの確認です。」そして、「この素地があるからこそ、残りの50%の教育が活きるのです。」さらに続けて「未経験の集団をここまで育てるために10年かかりました。」と、やっぱりしみじみ10年でした。

上澤さんは、社員に具体的な行動事例を示して、教え育てると言います。その時に役立つのが、お客様から届く手紙だそうです。今日は、上澤さんが手にした礼状をもとに、ある社員のエピソードを紹介します。

ある若い夫婦がレストランにやってきて、二人分の食事とお子様ランチを一つ注文しました。ウエートレスは少々困りました。規則では、子どもしか、お子様ランチを注文することができなかったからです。「何か事情がある」と察したウエートレスは、お客様にそれとなく訳を尋ねました。すると……今日は、夫婦の娘さんの誕生日とのこと。しかし、少し前に娘さんは病気でなくなっていました。生前、ディズニーランドでお祝いすることを、楽しみにしていた三人。この日、夫婦は娘さんとの約束通り、食事をしようとやってきたのです。それを聞いたウエートレスは、夫婦に二人席から四人席に移ってもらい、お子様用の椅子を用意しました。そして「ハッピーバースデー。今日は、素晴らしい思い出をおつくりください。」ウエートレスは、丁寧にお子様ランチを運んできました。

10年をかけた教育が生んだ、静かで美しい物語だと私は思います。



りんご農家の手塚さんのお話

読書まつり

恒例となっている読書祭りが、11月21日～12月2日の2週間行われました。「学年の目標に向けてたくさん読もう。」という図書委員会の呼びかけに応じて全校生がペアで読み聞かせや親子読書などに取り組みました。



図書委員会の発表（読書祭りについて）

（1）読書ラリー

期間中に、1・2年生は10冊、3・4年生は500ページ、5・6年生は600ページを目標に本を読みました。目標を達成した人には図書委員会手作りのしおりをプレゼントすることになっています。この期間に、全校生一斉読書の時間も設けられ、子ども達は、本の世界にどっぷりと浸ることができました。

（2）ペアで読み聞かせ（なかよし読書）

1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生でペアを作り、読み聞かせを行いました。読む本は上学年が本を選び、下学年に読んであげました。上学年の子はちょっぴり緊張しながら、下学年の子は目を輝かせて、体を寄せ合って読み合う姿は微笑ましく思いました。



なかよし読書

（3）おすすめの本の紹介

全校生と先生方にこの期間に読んだ本の中から1冊を選んで、おすすめの本をカードに書き、ホールに掲示しました。本の紹介により、読書の幅を広げるよい機会となりました。



先生方のおすすめの本

（4）親子読書

秋の夜長をおうちの方々にも楽しんでいただけたのではないのでしょうか。読書離れが叫ばれるようになって久しくなりましたが、読書にはインターネットからは得られない多くの宝物があります。「おうちの人から読んでもらったよ！」という経験は子どもたちの心を豊かに耕してくれます。これからもぜひ時間を見つけて親子読書をなさっていただきたいと思います。

校章のメダルづくり 出前鑄造教室

11月29日、長井工業高校機械システム科の生徒と担当の先生の指導を受けて6年生29名が校章のメダル作りを体験しました。直径約5センチ、厚さ5ミリのアクリルをNCマシンで加工した原型を鑄造用の砂に転写して、それに合金を流し込み、研磨作業、水洗い、塗装などを行い完成させました。体験した子どもたちは銀色のメダルを手に「思ったより簡単にできて楽しかった」「どろどろした金属がすぐ固いメダルになるのに驚いた」と笑顔で見せ合っていました。

